

24 期の大型研究計画学術研究領域と各分野大型研究計画評価小委員会について

1) 学術研究領域

学術研究領域は 23 期における「参考資料2 学術研究領域一覧」を踏襲することになると考えられますが、(資料 24-9-4c_学術研究領域一覧(23 期))

・融合領域(項番 32 (生命科学融合領域), 33 (理学・工学融合領域), 34 (人文・社会科学, 生命科学, 理学・工学のうち 2 分野以上に関わる融合領域) (赤枠で示す)の区分けを残すか、否かについて検討する必要があります。

・「第 24 期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン策定の方針」(2018.12.6)では、「2 大型研究計画の選定」の「(4) 融合領域について」で「マスタープラン 2020 でも、マスタープラン 2017 を踏襲し、日本学術会議の第一部、第二部、第三部の各部の中の分野間の融合領域、部をまたぐ分野間の融合領域を設定することとする」と融合領域の定義を行なっています。そのため、上記、32, 33, 34 と区別することに意味があるか不明です。

なお、どの分野の融合かについては、応募フォームの中の、

「4: 学術研究領域の選択

○ 融合領域以外を選択した場合は、別紙より該当する領域(コード)を 1 つ選択してください。必要であれば、もう 1 つ「副」として選択することも可能です。

○ **融合領域を選択した場合は、3つ以内の領域を選択してください。**

さらに関連する学術研究領域がある場合には、こちらにコードを記入してください。」

として連携する融合領域を設定することとしています。

・学術研究領域は応募フォーム作成上必須なので、本分科会で決定する必要があります。

2) 評価小委員会

(今回第三部会員の吉村忍先生にオブザーバーでご出席いただきご意見をいただくことになっています。)

参考資料4は 23 期の各分野(領域の上の範疇)の大型研究計画の評価小分科会一覧を示しています。(資料 24-9-4d_各分野大型研究計画評価小委員会(23 期))

・第一部については、分野別委員会1から 11 で一つの評価小分科会を設置しています。

・今回夏部会全部でこの評価小委員会の区分けについて、統合等の希望をお聞きしましたが、変更を希望される部はありませんでした。

・今回は、これらの小委員会に融合の評価小委員会を設置することになります。

- 1) どのような構成にするか、ご議論をお願いいたします。
- 2) どのような領域の組み合わせになるか予想がつかないため、俯瞰的、総合的に判断できる陣容(例えば部長、副部長、幹事、及びその方々が推薦する会員・連携会員)が望ましいように思います。
- 3) なお、融合領域では、応募フォームで指定する3つ以内の研究領域(具体的にはこれらの研究領域を含む研究分野の評価小委員会)での評価をお願いし、その結果も参考に融合領域の評価小委員会で評価を行うことになります。
- 4) 今回決める必要はありませんが、**2月には部及び分野別委員会に各々の小委員会の設置について依頼することになりますので、その前に決定する必要があります。**